
おバカ姫とワガママ王子

いーちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おバカ姫とワガママ王子

【NNコード】

N1660N

【作者名】

いーちゃん

【あらすじ】

恋愛未経験のルイ。

ワガママ王子の潤。

二人の恋の物語。

恋がしたい！

私の投稿してからの第一声がこれだった。

私は七海ルイ。

華の高校一年生

自分で言ふのもなんだけとかなりモテる
娘つ二男は豊の奴。

つてなわけあるか！

…はい。ハジメノ四行以外全部嘘です。

彼氏いなし歴16年だぜ

まるで強盗の手口みたいで、これが私のロジックなわけです。

私は小、中と女子校育ち。そのため、近所ノ友達が続々と彼氏をつ

くる中私は男の子に対する免疫がないため一人おいてけぼりに

流口一也機工社

のですが。

俺様君登場！！

また始まつたよ、ルイの病気。」

彼女は莉子。通称りつちゃん。私の大親友！

「病気じやないもん。願望だもん。」

「どつちでも一緒だつて。」

いや、かなり違うと思いますけど。

「大体、ルイはカワイイのにそのおバカな言動のせいで彼氏できな
いんだよ。」

「マジ！？私つてそんなにバカ！？」

「自覚なしかよ・・・まあとりあえずルイは大人しくしてろ。そ
したら普通にカワイイから。」

「はーい。おつ、千ヶ崎君おはよ！」

千ヶ崎君が教室に入つてきた。

千ヶ崎君は学校でも1・2を争うイケメン。
誰にでも優しいクラスの委員長。

「七海さん、おはよう。」

ほら、あんまり喋つたことない私にも優しい。

「ルイさ、千ヶ崎君とかどう？」

「へ？どつて？」

「だから、ルイの彼氏候補。千ヶ崎君なら優しいし、カッコイイか
らあんたとつり合いでこれでちょうどいいかもよ。」

「うーん。千ヶ崎君つて私にとつて恋愛対象じゃないんだよね。」

「ふーん。まあ彼氏は自分で見つけな。それが一番だ。」

「アドバイス、サンキュー！」

その日の休み時間。

私は購買でパンを買いに行つた帰りで食べるのが楽しみでそればかり考えていた。

その時だつた。

「おい、そここの女どけ。俺が通る。

勝負開始！！

知らない男子だった。

ムカツ

「なによ！なんか用？自「じ」ちゅー君。」

相手も反論されるとは思つてなかつたらしく一瞬驚いたような顔をした。

でもすぐに言い返してきた。

「はあ？お前何様だ？この俺様に盾突こいつてのか？」

「だつたら？大体あなた今時一人称が俺様なんて古いわ。時代遅れもいいとこだわ。それともなに？」

あなたそれがカツコイイとか思つてんの？だつたらはつきり言づけどそれ、ダサいわよ？」

ぶちつ！

何かがキレる音がした。音の正体は明白だった。

「よーし、そのその度胸だけはほめてやる。今日の放課後屋上に来い。勝負つけようじやねえか。」

「いいわよ。そのかわり、私に恐れをなして逃げないようにな、俺様君！」

あいつの正体

「つていう訳なのーもう超ムカつべー。」

「・・・ルイ、その男子なんて名前か知ってる?」

「へ?知らないよ?」

「だよね・・・。まったく、あなたはまためんどくさい奴に喧嘩吹っ掛けた・・・。」

「え?りっちゃん俺様君知ってるの?」

「うん。つか私はあんたが知らなかつたのにびっくりだよ。ま、ルイそういう情報疎そだもんねえ。多分だけどそいつ、風間潤だよ。」

「かざまじゅん?」

「そう。なんか親がうちの学校の理事長やつててすん!」¹⁾金持ちらしいよ。スポーツ万能で、成績も学年1位。おまけにイケメンときたるから、女子の彼氏にしたい人?、1だつて。私はそうは思わないけど。」

「ふーん。面食いのりっちゃんでもヤなんだ。」

「当り前よ。私には森山君が一番かつこいい・・・つて何言わせんのよ!ー!」

「イッヒッヒ。赤くなつちやつて。カワイイ。まありっちゃん森山君ラブだもんね。」

説明しようー森山君とはりっちゃんの彼氏のイケメン君なのだ!

・・・大親友でさえ彼氏がいるといつこの虚しあ。

「ま、まあそれは置いといて。ルイ、結局どうすんの?」

「どうすんのつて?」

「だーかーら!風間君のこと!行くの?行かないの?」

「そんなの行くに決まつてんじやん!売られた喧嘩は買つとかないとー!」

「買つとかないどつていうルイの考えはよく分かんないけど……。
まあとりあえず、行くならルイ、気をつけなさいよ。風間潤つて実
際かなりかつこいいらしこから。惚れないようにな。」

「おす……」

勝負の内容

そして放課後。

若干の遅刻。

りつちやんと蝶り過ぎたか。

屋上のドアを開ける。

「遅かつたじやねえか。てつき逃げたのかと思つたぜ。」

開けると同時にあいつの声がする。

「ふん。逃げる訳ないじやない。私、売られた喧嘩は買ひ主義だから。

「随分と強氣じやねえか。お前、俺が誰だかわかつてゐるのか?」

「分かつてゐわよー風・・・風・・・風車?」

「違げーよー俺は風間潤だ!」

「そう、それ!」

「馬鹿かてめーは?まあいい。とりあえず勝負といくか。」

「勝負って何すんの?」

「どちらかがどちらかに惚れたら負けついでゲームだ。どうだ?」「いいでしょ。そんな勝負、この七海ルイにかかるばお手の物だ!明日からの勝負、楽しみにしてなさい!」

――かくして私とあいつの勝負が始まつたんだけど・・・。

作戦その1

翌日の昼休み。

「ふつふつふ！どうだ、風間潤！」

屋上で私が見せたのは手作り弁当。

手作り弁当を「はい、あーん。」とやられて落ちない男はない！

朝五時起きて作つた

卷之三

「は？ じゃなくて、どう？」

「何で弁護?」

卷之二十一

自分から暴露するところだつた。・・・。

「俺がどうかしたのか？バカ女。」

んかとこの異郎」「と、言い方に用ひが持たる

「我當時也已戀她極了——！」

何か言いかける風間潤の口に無理やり卵焼きを押し込む。

卷之三

う！？・・・ん？・・・・・美未・・・・・。

「...アサヒヒゲ」

素に戻った

お、い、素に戻ってるぞ、あ、あ、折角、心が傾きかけたと思つての、い、い、いやあダメだば。

「ええええええ――――――――――――――――――――

作戦その2

放課後。

作戦その1は失敗したが、今度こそ…と、思い風間潤と一緒に帰る事に。

・・・何話せばいいのかわかんない！

話題がない！

パにくりすぎてなんだかよくわからなくなってきた・・・。
そもそもなんで私、こいつと帰ってるわけ！？

誰か助けて〜！

ヘルプミー〜！

「・・・おいつ！バカ女！黙つてないでなんか喋ろー・氣まずいだらうが！」

「だーかーら！私はバカ女じゃ あないって言つてるでしょ！？」

「馬鹿じやねえか。敵に作戦ぶちまけたり、人の名前間違えたり。
これのどこが馬鹿じやないんだ？」

「うつ・・・・。」

「だろ？」

「そーですよーどうせ私はあなたのように頭も良くないし、運動で

きないし、ルックスだつて全然可愛くないですよ！」

「へー。よく分かつてんじやん。素直でよろしい。」

「ふん！じゃあね、私、こっちだから。」

「一人で帰れるか？」

「馬鹿にするなー！」

「はいはい。じゃあな。・・・あ、そうだ。」

少しから歩いて風間潤が振り向いた。

「お前さつき、自分の事全然可愛くないとか言つてたけどなーお前、結構かわいいと思うぜ！」

それだけ言って歩き出す。

風間潤が見えなくなるまで立ちぬくからふと、我に返つて気づく。

頬が赤くなつてゐること二。

「・・・馬鹿・・・。」

恋の始まり

「おはよー、ルイ……ってあれ? どうしたの? そんなにぼうつとして。」

「へつ! ……なんだりつちゃんかあ。びくつりしたあ。「なんだとほこ挨拶ねえ。人が心配してやつてるの!」。」

「あはは、「メンゴメン。ちょっと考え事を。」

「ふーん。」

りつちゃんはそれ以上追及することはなかつた。
まあ、追及されたら困つたんだけど。

だつて今・・・昨日の事を思い出していたから。

『お前、結構可愛いと思つぞ!』

あの言葉は家に帰つてからもずっと耳に残つていた。
今でも思いだすと頬が赤くなる。

ああ! もう一ダメダメ! しつかりしなきやー! んなんじや、勝負に
勝てるもんも勝てなくなつちやつ! ——————一方その頃。

風間潤君はと言つますと。

《風間潤》

くつそ!

何で昨日帰りにあんな事、言つちまつたんだ?

あれじやバカ女を思いあがらせるだけじゃねえか。

・・・でも。

・・・昨日そつ思つたのも事実なんだよなあ・・・。

——一人葛藤していました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1660z/>

おバカ姫とワガママ王子

2011年12月30日22時47分発行